

# 2016年、もっと輝く世界の北海道へ



一般財団法人北海道開発協会会長

## 内田 和 男

明けましておめでとうございます。皆様には清々しい新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

来る3月26日、いよいよ道民待望の北海道新幹線、新青森～新函館北斗間約150kmが開業します。東京オリンピック直前の1964年10月1日、東京～新大阪間の東海道新幹線が開業して半世紀以上の月日が流れ、ようやく北海道に新幹線がやってきます。

新幹線開業を見据え、1月13日には、木古内町の駅『みそぎの郷きときこない』が、レンタカー、バス、在来線などの二次交通の結節点として、また、広域観光の情報発信や、特産品販売の拠点としてオープン予定とのことです。新幹線をどう北海道の課題解決に活かしていくのか、私たち道民全員が協力して取り組んでいきたいと思えます。

一方、昨年10月5日には、環太平洋パートナーシップ（TPP）交渉が大筋合意に達しました。TPPが成立すれば、日本を含む参加12カ国の経済規模はGDP28兆ドルと、世界の約4割を占める巨大な自由貿易経済圏となります。TPPは、モノの関税だけではなく、サービス、投資の自由化など、幅広い分野で21世紀型のルールを構築するものです。北海道にとっても、世界の活力を取り込み、日本のみではなく世界の中の北海道の立ち位置を様々な切り口から見直す機会、と捉えたい

と考えます。

グローバル化、人口減少と少子高齢化、突発的自然災害の増加など、私たちは、これまで経験したことのない社会環境にありますが、北海道には、常に新しいことに挑戦する伝統があります。北海道開発事業の中では、積雪寒冷地における社会基盤整備に関する土木技術や建設機械が広く研究開発されてきました。例えば篠津泥炭地開発事業の中で培われ、食料基地北海道を築き上げた寒冷地技術は、現在も世界から注目され技術支援の要請が絶えません。

この春ころの取りまとめに向けて審議されている第8期の新たな北海道総合開発計画の中間整理においても、「世界の北海道」のキャッチフレーズの下、「人が輝く地域社会」「世界に目を向けた産業きょうじん」「強靱で持続可能な国土」が3つの目標として掲げられています。これまでの北海道開発の基盤の上に、北海道開発協会としてもこれらの目標の実現に寄与しうる調査研究、広報活動、研修会の開催など各種公益事業を、産官学民と連携しつつ効果的に実施していきます。

新しい年がもっと輝く北海道を創出し、皆様にとっても幸多き年となりますよう祈念し、新年のご挨拶といたします。